

福山城築城400年記念

福山名所コンサート

ふくやま などころ



総集編 **城下町 福山**

会場：喜多流大島能楽堂

福山市光南町2-2-2

2022年12月25日（日） 13：30～15：30

お 話「城下町 福山」 皿海弘樹（福山城博物館 学芸員）

能 楽 独吟「福 山」 大島衣恵 能楽シテ方喜多流

仕舞「高 砂」 大島政允 能楽シテ方喜多流職分

二上り 福山市古典芸能保存会（会長 星野由幸）

平山富久 藤井祥江 金藤和明 岡本リリー

麻生正幸 橋元玉子 穂垣節子 佐藤和子

胡弓 木場大輔 三味線 二代目杵屋勝九郎 邦楽小鼓 望月太津友

襲（かさね） 木場大輔

一調一挺による長唄「三番叟」 二代目 杵屋勝九郎 望月太津友

落語オペラ 作詞・脚本・作曲 加藤由美子

監修 平本弘子 制作 Studio歌鈴（かりん）

ピアノ 上杉智穂

I 「江戸小唄唄」

亀は万年 金づち 粋 静御前 かごや 芭蕉 昼幽霊 会話 与太郎

青木節美 池田尚子 奥野純子

口上 平本弘子

II 小唄唄「節分」 青木節美 池田尚子 奥野純子

III 「芝 浜」 ～古典落語より～

魚屋の勝：福西 仁 妻：福永真弓 大家：池田尚子

勝の友人たち：青木節美 奥野純子

主催／喜多流大島能楽堂 Tel 084-923-2633 <https://www.noh-oshima.com/>

共催／福山城築城400年記念事業実行委員会・Studio歌鈴（かりん）

後援／福山文化連盟 福山喜多会

城下町 福山

1：水野勝成について

家康の従弟として永禄7年(1564)三河国に生まれる。初陣は16歳といわれ、織田家家臣として高天神城(静岡県)攻めに参加、織田信長から感状と刀を授かる。しかし、天正12(1584)年、小牧・長久手の戦いの後、父忠重との不仲から水野家を出奔。

その後は九州を放浪、様々な武将に仕えるも、出奔を繰り返す。

慶長3(1599)年家康の仲介により忠重と和解、その後父の死を経て刈谷城3万石の城主となる。翌年、関ヶ原の戦い、同19(1614)年大坂冬の陣、翌慶長20(1615)年には大坂夏の陣で活躍する。

その功から3万石加増、大和国郡山(現在の奈良県)へ6万石で転封。

2：福山藩の誕生について

1)勝成入封の経緯

関ヶ原の戦いの後、福島正則が安芸・備後一帯の領主として(50万石)広島城入城。しかし、元和5年(1619)城の無断修復により信濃国・越後国へ移封。

→同年水野勝成の福山入封が決定(安芸広島は浅野 長 晟^{ながあきら})。

2)福山城築城

元和6(1620)年8月～元和8(1622)年8月、福山城築城。

外様大名に睨みを効かせるための「西国鎮衛」の任を持つての築城である。



革包茶糸威二枚胴具足
(賢忠寺蔵)

江戸時代中期に記された『西備名句』には「開築之組、水野日向守勝成朝臣、元和五年…西國藩鎮として本州神邊楓山城に拾万石を賜り、同八月和州郡山より、御引移り、鞆津に御上り、暫く御在城にて、其後神邊福島丹波が屋敷に御入なされ、一箇年御在座、其間に御領内御巡見有て、要害之地を御試み有けるに、此地古は水たまりにて、其頃は茫々たる芦原なりしを御覧あつて、此所こそ行末永く栄ふべき、しかも要害の地なりとて…」とある。

3)町づくりについて

①町の形成と埋立地の増設

城の西側から南側に向かって家臣団、そして東側には備後領内から富豪を招いて借家を建てさせる。同じく、東側から南にかけて領内の職人を集団で住まわせ鍛冶屋・桶屋・魚屋・大工・医者など職業により町を配置。

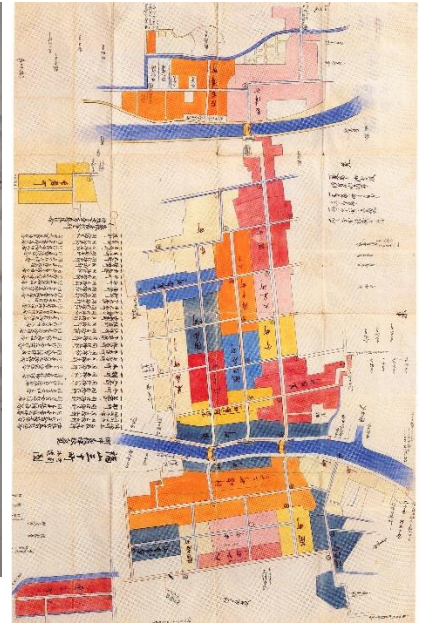
地子・諸役免除の上、往来を奨励しており、笠岡町や府中町はまさにその名残である。更に外堀から続く入川に天下橋、2代勝俊の代には新橋(木綿橋)が架けられ、町人の往来の利便性を向上させている。

②上水道の設置

福山上水道は、江戸神田上水から数えて全国で5番目の敷設である。水源は芦田川であり、本庄の蓮池(どんどん池)に導き、蓮池を貯水池としてここから外堀へ、また城下町へと導水している。



水野時代福山城下地図（福山城博物館蔵）



三十町町割水道図
(福山城博物館蔵)

③産業の振興

沼隈地方で行われていた藺草の栽培と畳表の生産について、職人への援助と統制が図られている。その結果、福山の畳表は江戸城造営の際や、御三家への献上品として全国的に名声を高める。

そして全国に先駆けて発行された藩札等、勝成の行った産業の振興は後の福山に大きく影響を与えている。

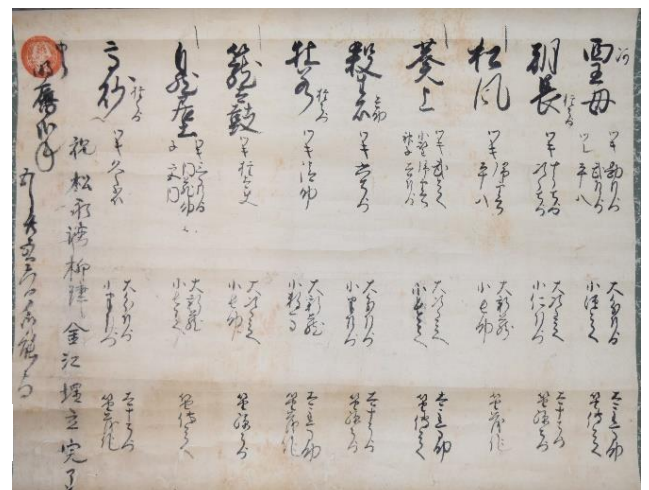
3：水野家と能について

能をこよなく愛し自らも舞ったといわれる勝成であるが、それにまつわる逸話や、資料が現在も市内各地で確認でき、2代勝俊の代には、既に町人を招いて能が披露されていたようである。

3代勝貞は藩主下屋敷（現在のローズコムの辺り）に能舞台を設営したと伝わりと共に、秀吉由来の能舞台を鞆祇園社に奉納している。

4代勝種は、参勤交代から帰ると自身の下屋敷にて能を上演しており、押し合い大勢押し寄せたとのことである。この能舞台には、藩主専用の席の他、家老、町医者、町人、百姓等それぞれ席が定められていた（福山御伝記より）。また明暦2（1656）年、松永湾柳津の埋め立て記念に能を上演するなど、勝成の気質は、以降の藩主にも受け継がれている。

この下屋敷であるが、阿部正弘の代に藩校誠之館が開校され、多くの藩士が集う場所となる。



柳津埋立御能祝賀番組（福山城博物館蔵）

【出演者紹介】



大島 政允

能楽師
シテ方喜多流職分
能大島家四代目当主



大島 衣恵

能楽師
シテ方喜多流

福山市古典芸能保存会

郷土芸能保存会を母体として昭和60年に発足。
現在会員数30名。(会長 星野由幸)
福山の伝統芸能「正調二上りおどり」の保存、継承
を目的として活動。
2010年[山陽新聞奨励賞]を受賞。



木場 大輔

胡弓演奏家 作曲家
NHKEテレ
「にっぽんの芸能 花鳥風月堂」
に出演。



二代目
杵屋 勝太郎

長唄三味線方
杵勝会所属



望月 太津友

邦楽囃子「桜友会」主宰
小鼓・大鼓・太鼓専門

Studio歌鈴(かりん)



福西 仁

テノール
大阪音楽大学演奏員
Studio歌鈴ゲスト



青木 節美

ソプラノ
聖歌隊や施設からの
依頼コンサート多数



池田 尚子

ソプラノ
ノートルダム清心女子
大学准教授



奥野 純子

ソプラノ
フィオーリ・ムジカーリ
北部市民大学指揮者



福永 真弓

メゾソプラノ
マンマヴォーチェ
東・西部市民大学指揮者



三待 美早穂

ソプラノ
アンサンブルPocoの
指導及び指揮者



上杉 智穂

ピアニスト
広島市を中心に伴奏
ピアニストとして活躍

Studio歌鈴の女性全員が
「ふくやま日本歌曲塾」の
演奏会員として活躍しています。